



平成23年2月23日

春一番！強風・突風に注意！

<2月～4月は特に多い>

東京消防庁管内では、平成18年1月から平成22年12月（平成22年は速報値）までに、強風や突風のため、歩行中にバランスを崩したり、飛来物・落下物にあたりたりする事故で779人が救急搬送されています。春一番等の強風・突風の時季を前に、当庁では注意を呼びかけています。

- 1 月別にみると、2月から4月の3か月間で全体の約52%を占めています。特に4月は、年間を通じて事故が最も多く発生しています。
- 2 歩行中等に強風・突風にあおられ、バランスを崩して受傷する事故が最も多く、約56%を占めています。
- 3 初診時程度別では、「中等症」以上となったものが全体の約24%を占めています。
- 4 5歳以下の乳幼児では、ベビーカーや自転車等に乗っていた際に強風・突風にあおられて転倒等する事故が多く発生しています。
- 5 歩行中等にバランスを崩しての受傷では、下肢などの骨折が約15%、ドア、扉に挟まれたことによる受傷では、指の離断や上肢・下肢の骨折が約16%を占め、重いけがとなっています。

詳細は、別添え資料をご覧ください。

東京消防庁では、強風・突風による救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

問合せ先

東京消防庁 (代) 電話 3212 - 2111
生活安全課生活安全係 内線 4206
広報課報道係 内線 2345～2349

強風・突風による救急事故の発生状況について

東京消防庁管内（東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域¹）では、平成18年1月から平成22年12月まで²の間に、強風・突風による事故により779人が救急搬送されており、その状況は以下のとおりです。

1 発生状況

(1) 月別発生状況³

月別発生状況を見ると、2月から4月にかけての発生が他の月に比べて突出して多く、この3か月間での発生件数は52.0%を占めています。

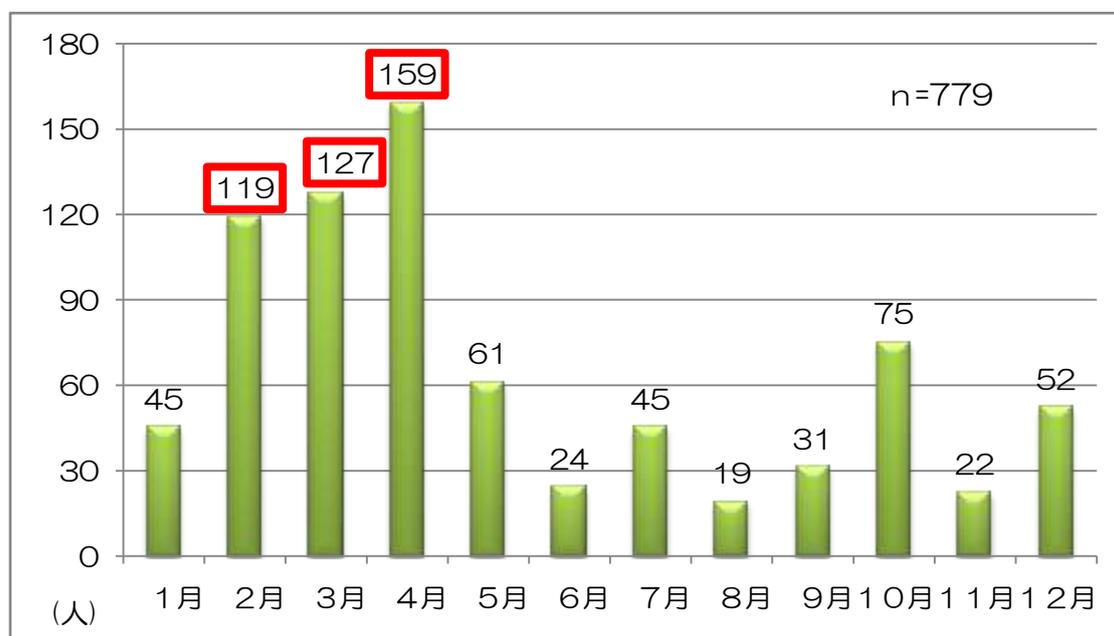


図1 月別発生状況

(2) 要因別・年齢層別発生状況

年齢層別の特徴をみると、5歳以下のベビーカー・自転車など「乗り物等があおられ転倒等」や、71歳以降の「歩行中等にバランスを崩す」ことによる受傷が特に多くなっています。また、81歳以上では「傘があおられ転倒等」が他の年齢に比べて多くなっています（表1）。

¹東久留米市は平成22年4月1日から当庁管内となりました。

²平成22年分については速報値で集計しました。このため、後日変更になる可能性があります。

³月別発生状況については、平成18年から平成22年の集計です。

表1 要因別・年齢層別発生状況

	5歳以下	6～10歳	11～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	71～80歳	81歳以上	総計
歩行中等にバランスを崩す	3	8	15	12	21	48	139	192	438 (56.2%)
飛来物、落下物との接触等	4	4	44	10	11	12	12	3	100 (12.8%)
ドア、扉に挟まれる等	12	9	12	4	7	8	11	7	70 (9.0%)
乗り物等があおられ転倒等	29	4	3	2	4	11	8	3	64 (8.2%)
転倒物の下敷き等	2	6	16	3	4	6	10	2	49 (6.3%)
傘があおられ転倒等	0	1	3		5	3	8	21	41 (5.3%)
その他	1		4	1	3	1	5	2	17 (2.2%)
総計	51 (6.5%)	32 (4.1%)	97 (12.5%)	32 (4.1%)	55 (7.1%)	89 (11.4%)	193 (24.8%)	230 (29.5%)	779 (100%)

(3) 初診時程度⁴別発生状況

初診時程度別発生状況をみると、中等症以上の事故は全体の24.4%を占めています（表2）。

表2 初診時程度別発生状況

	軽症	中等症	重症	総計	中等症以上の割合
歩行中等にバランスを崩す	305	126	7	438	30.4%
飛来物、落下物との接触等	91	9	-	100	9.0%
ドア、扉に挟まれる等	52	17	1	70	25.7%
乗り物等があおられ転倒等	51	12	1	64	20.3%
転倒物の下敷き等	45	4	-	49	8.2%
傘があおられ転倒等	34	7	-	41	17.1%
その他	11	5	1	17	35.3%
総計	589 (75.6%)	180 (23.1%)	10 (1.3%)	779 (100%)	190 (24.4%)

⁴（重症）生命の危険が強いと認められたもの（中等症）生命の危険はないが入院を要するもの（軽症）軽易で入院を要しないもの

(4) 受傷部位と診断分類

「歩行中等にバランスを崩す」において、中等症以上となった133件のうち、不明を除く93件について見ると、62.4%が「骨折」となっています。

受傷部位別では、下肢の受傷が51.6%と半数以上を占めており、このうち、骨折は83.3%を占めています。また、軽症と診断された「骨折」を含めると、全体で67件となり、「歩行中等にバランスを崩す」の15.3%を占めています。

件数は少ないですが、脊椎等の損傷など、重大な後遺症を残す可能性が大きい事故も発生しています（表3）。

表3 「歩行中等にバランスを崩す」の中等症以上の受傷部位と診断分類

	骨 折	挫 傷 (打撲、 血腫等)	開 放 創	脊 椎 損 傷 脊 髄 損 傷	そ の 他 (不 明 含 む)	総 計
下 肢	40	8	-	-	-	48 (51.6%)
顔 ・ 頭	-	10	3	-	1	14 (15.1%)
上 肢	8	-	-	-	-	8 (8.6%)
背 部 ・ 腰 部	1	5	-	1	-	7 (7.5%)
胸 部 ・ 腹 部	5	-	-	-	-	5 (5.4%)
肩 部 ・ 頸 部	2	1	-	1	-	4 (4.3%)
そ の 他	2	-	-	-	5	7 (7.5%)
総 計	58 (62.4%)	24 (25.8%)	3 (3.2%)	2 (2.2%)	6 (6.5%)	93 (100%)

次に、「ドア、扉に挟まれる等」において、中等症以上となった18件のうち、不明を除く13件について見ると、重症の事例はないが、「骨折」、「離断」が最も多く発生しています。また、軽症と診断された「骨折」、「離断」を含めると、全体で11件となり、「ドア、扉に挟まれる等」の15.7%を占めています。

受傷部位別では、「ドア、扉に挟まれる等」において、「指」を離断する事故が4件発生しており、十分な注意が必要です（表4）。

表4 「ドア、扉に挟まれる等」の中等症以上の受傷部位と診断分類

	骨 折	切 断	開 放 創	挫 傷 (打撲、 血腫等)	総 計
指	-	4	-	1	5 (38.5%)
下 肢	3	-	-	-	3 (23.1%)
上 肢 (指除く)	2	-	-	-	2 (15.4%)
顔 ・ 頭	-	-	2	-	2 (15.4%)
背 部 ・ 腰 部	-	-	-	1	1 (7.7%)
総 計	5 (38.5%)	4 (30.8%)	2 (15.4%)	2 (15.4%)	13 (100%)

(5) 事故関連器物

受傷要因のうち、「飛来物、落下物との接触等」と「転倒物の下敷き等」における事故の関連器物では、いずれも看板、テントが多くなっています。（図2、図3）。

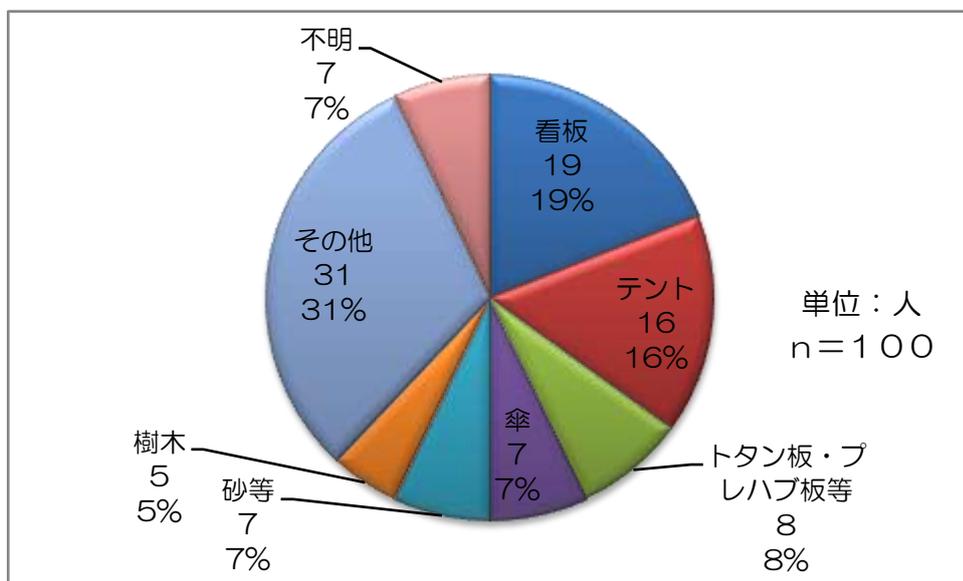


図2 「飛来物、落下物との接触等」における事故関連器物

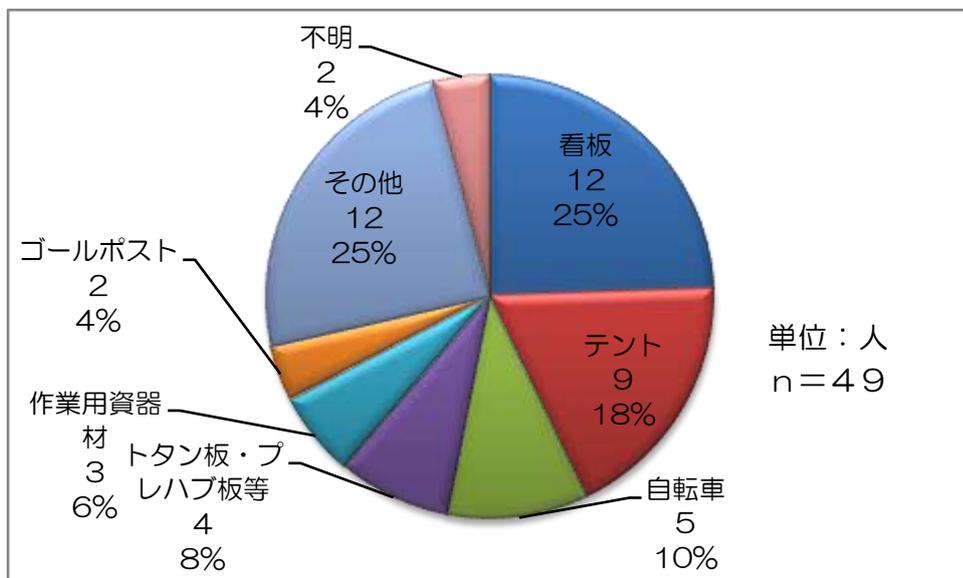


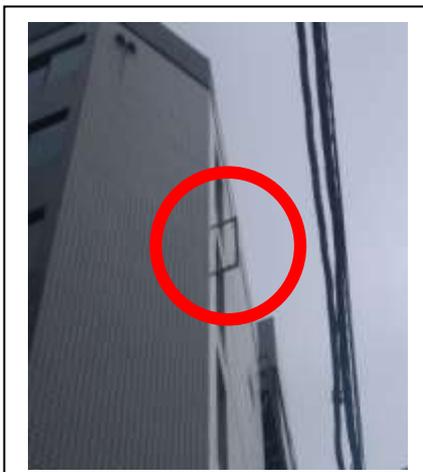
図3 「転倒物の下敷き等」における事故関連器物

2 事故要因別の主な事故事例

事故要因	事例概要
歩行中等にバランスを崩す	右足が不自由な82歳の男性が、妻に付添われながら歩いていたところ、強風にあおられて転倒し受傷したものの。 (平成22年9月西東京市、82歳男性、重症)
飛来物、落下物との接触等	52歳男性が、建築現場付近を歩いていたところ、立て掛けてあった木製コンパネと鉄製パイプでできた型枠（高さ約3m・横幅約10m）が強風にあおられて倒れ、男性が受傷したものの。 (平成22年5月新宿区、52歳男性、重症)
ドア、扉に挟まれる等	8歳男児が、友人宅の玄関において、強風にあおられたドアで右手中指を挟み、切断してしまったもの。 (平成21年2月荒川区、8歳男児、中等症)
乗物等があおれ転倒等	母親が公園内において、1歳の男児を自転車の前かごに乗せたまま券売機で入園券を購入していた際、自転車が強風で倒れ、乗っていた男児が頭部を受傷したものの。 (平成22年4月立川市、1歳男児、中等症)
転倒物の下敷き等	10歳男児が、小学校校庭でミニサッカーのキーパーをしているときに、強風で倒れてきたゴールポストが頭にあたり、そのまま下敷きとなったもの。 (平成22年4月大田区、10歳男児、中等症)
傘があおられ転倒等	90歳女性、傘をさしながらカートを押して歩いていた際、路上で風にあおられて転倒し、歩行不能となったもの。 (平成22年2月大田区、90歳女性、中等症)

けが人はでなかったが、このような場面も・・・

<ビル9階の開けていたサッシが強風を受け、急激に開放した衝撃でガラスが割れ、屋外に飛散した状況>



3 事故防止のポイント

強風・突風が多く発生する時期は、天気予報をこまめにチェックして、次の点を心がけてください。

(1) 強風時の外出には注意！

強風や突風の時は、外出はできるだけ控えるようにする。また、強風を伴う雨天時に傘をさしたりするときには十分に注意する。

(2) ドアでの指の挟まれに注意！

ドアは、強風や突風により急激に開閉されて、指が挟まれて離断したり、四肢を骨折したりしてしまう事例もあることから、強風・突風時のドア、扉の開閉時はドアノブ等をしっかりと把持するなど十分注意する。

(3) 植木鉢、物干し竿等、ベランダに置いてあるものは片づける！

強風や突風が予想される時は、ベランダの植木鉢や物干し竿など飛ばされるおそれがあるものは、室内に取り込んでおく。強風で物干し竿が物干し竿受けから外れ落下した事例もあることから、特に高層階では注意する。

(4) 子供を自転車・ベビーカー等に寄せたままその場を離れない！

5歳以下の乳幼児では、ベビーカーや自転車等に寄せられたままの子供が、保護者等がその場を離れたすきに、強風・突風にあおられて転倒等して受傷する事故が多いため、保護者等は、子供をベビーカー等に寄せたままその場を離れない。

(5) 看板、フェンス、テントなど飛ばされやすいものは固定を！

施設管理者は、強風・突風時に物が飛ばされないよう、確実な固定措置を施しておく。特に、工事現場などで仮設の看板やフェンス等は強風により落下したり、転倒したりして、付近の歩行者が受傷する事故もあるため、設置する際には確実な固定措置等を講じる。また、看板等の所有者・設置者等は適宜点検を実施し、確実に固定されているかを確認する。

(6) イベントやスポーツ中の事故もある。安全側にたった判断を！

イベント等で設置したテントの下敷きになる事例や、スポーツ中にゴールポストなどの下敷きになる事例などがあることから、各種イベントやスポーツ実施に強風が予想されるときには、主催者等はイベント等の中止など、安全側に立った判断を心掛ける。

4 暴風雨体験ができます

東京消防庁本所防災館（墨田区横川4-6-6、03-3621-0119、暴風雨体験は未就学児不可）では、暴風雨体験コーナーが設けられており、風速毎秒30mの暴風を体感することができます。

暴風雨体験コーナー

風水害をもたらすほどの強風や大雨を体験し、そのすさまじさを知るとともに、強風や大雨に関する知識を高められます。



【参考】風の強さと吹き方（引用元：気象庁ホームページより）

平均風速 (m/s)	およその時速	予報用語	人への影響	屋外・樹木の様子	建築物の被害
10以上 15未満	~50km	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。
15以上 20未満	~70km	強い風	風に向かって歩けない。転倒する人もでる。	小枝が折れる。	ビニールハウスが壊れ始める。
20以上 25未満	~90km	非常に強い風	しっかりと身体を確保しないと転倒する。		鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。
25以上 30未満	~110km		立ってられない。屋外での行動は危険。	樹木が根こそぎ倒れ始める。	ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装材がはがれ、飛び始める。
30以上	110km~	猛烈な風			屋根が飛ばされ、木造住宅の全壊が始まる。

「病院へ行った方がいいのかな？」
「救急車を呼んだ方がいいのかな？」 **迷ったら**

東京消防庁救急相談センター 24時間対応
年中無休

#7119

つながらない場合は…

23区 03(3212)2323
多摩地区 042(521)2323